6.21

首腦者を奪はれた 藤永田の罷業團
益々結束を固くし九州の同志其他へ應援狀を

幹部を檢束された藤永田造船所罷工職工數百名は十九日も朝來朝日倶樂部に集合凝議の結果友愛會の木村氏歸阪の上指揮を仰ぐ事とし同時に東京及び九州の造船勞働組合の來阪を打電し神戸へは組合員一名を出張させ組合員の結束を固める爲め朝來花輪其他の餘興を爲し地藏町騎井重三郎、泉尾町宮下源造方と朝日倶樂部で炊出をして居た

警官の重傷三名
輕傷者三十名 五十八名檢擧

負傷者及び檢擧者等は大體既報の通りであるが十九日正確に判明した檢擧者數は五十八名（新町署二七名、川口署三名、泉尾署二六名檢擧）である、又警官の負傷者は阪口川口署長以下二十三名の多數に及び就中久島阪本落合の三巡査の如きは梶棒で頭部その他を毆打され何れも三四週間を要する重傷者をさへ出して居る負傷した警官は川口署長外左の諸氏である

警官の負傷者 ▲巡査部長西の内猛、川上平三郎、加戸辰三郎▲巡査柔原英樹、井倍國吉、田口宅治、廣橋平太郎、岡田勝巳、田中正重、久島留吉、本田岩蔵、下菅木興志、山田満美、今津和幸、坂本初蔵、竹中貞次郎、西川龜太郎、森元勇吉、太田松夫、落合虎次郎、島田辰次郎、勇雄

尚又職工側の負傷者は新町署で二十七名を檢擧して居る内八名の負傷者を數へるが警察の觀察では百數十名にも及んで居る見込みであるが正確な事は判然しない

鈴木課長宅 襲撃者檢擧
新町署に送らる

十八日夜鈴木藤永田造船課長宅を襲撃した敷津分工場職工に對し今宮署は十九日朝來大活動中であつたが午後に至り西成郡玉出町字浦田藤永田造船所電氣工伍長三上藤吉外四名を檢擧し同夜新町署に送致した

手嚴しい檢擧
夫れから夫れへと手を下す

騷擾職工に對する其筋の今後の方針を聞くに檢擧して居る五十八名を手蔓として次から次へと一網打盡的に檢擧する方針に決め、田口刑事課長は警察部長の命に依り、市内各署の敏腕刑事四十餘名を召集して十九日午後から檢擧に着手した、廿日には多數檢擧される模樣である、又普通の犯罪者ならば差入れ物などが多數ある筈であるが捲き添へ的檢擧を怖れてか檢擧された職工の差入れは全くないと係官は語つて居た

檢擧者は何れも起訴
騷擾罪か治警法で

騷擾以來新町署の大河内署長以下署員は勿論各署から應援した專屬の警官は不眠不休の姿で新町署は最も多忙を極め居る外大阪地方裁判所からは宮崎、蒔谷の二檢事早朝から同署に出張の上諸亂の模樣と實地の檢證をした上午後一時檢事正に報告の爲め一旦引き揚げたが檢擧者は何れも騷擾罪又は治安警察法十七條で起訴される模樣である

6.21

藤永田は 持久戰の資金調達
友愛會と共益社の盡力で雜貨行商隊を組織す
◇更に大會を開いて活動

藤永田造船所職工と會社との交渉は見込なきに至つたので、友愛會各聯合會及び共益社は、同造船所の罷業團を救濟し、一方は大阪、神戸、京都三大都市に進出せんとする勞働爭議の**資金**を集むる爲め、先づ藤永田の罷業團を以て五名一組として五十組の行商隊を作り、之にタオル靴下石鹸等を賣らせる事となり、神戸京都にても同樣の行商隊を組織し**品物**の仕入は勞働者の購買組合なる共益社で引受けて、罷業職工自治の道を立てしむべく、一方に軍用金を集めんとの計畫で、二十日夜各公園縁日盛り場及び、遊戲場を廻る段取で、松岡理事が主として**準備**をして居るが、東京の本部にても、各所に演説會を開き、運動資金を大阪に供給すべく、二十日午後六時より友愛會の主催にて市勞働者の蹶起を促す爲め、天王寺公會堂に聯合大會を**開催**する事となつた、又前日倶樂部には數百名の罷業職工が集まつて、朝來浪花節を唸つて極めて呑氣に構へて居るが、『今度天王寺に、最も意義ある會合を催すべし振つて出席され度し』との**貼紙**を各所に爲し、大阪警察部は、午前中市内各署に動員を命じて警戒の準備をなしつゝあり、尚新町署にては、田口刑事課長出張して、前日の**檢束**者五十七名に更に同日の檢束者廿五名を參考人として召喚し、宮崎、蒔谷各檢事の出張を請ひ取調を續けて居る（大阪電話）

雄辯 七月號 大特價
模範演説＝直ぐ役立つ
辯論資料＝頗る豐富
趣味の論說＝面白くて
通俗法話＝話方になる